

キヤノングローバル戦略研究所(CIGS)
エフゲニー・サタノフスキー氏セミナー
「中近東地域の難問」
【要旨】

日時：2016年10月18日

場所：東京ステーションコンファレンス 501AB

中東研究所所長 エフゲニー・サタノフスキー氏：中東研究所の研究は、いかなる国とも関係がありません。本プレゼンテーションで表明した見解は、私自身の個人的見解であって、ロシア政府とは関係ありません。

中東について研究する際の難問の一つは、明らかな善人も悪人もおらず、しばしば紛争が灰色であることです。テロ組織は今や前例がないほど多額の資金を入手でき、イスラム国は年間 30 億ドル以上の支援金を獲得しています。もう一つの難問は、中東のリーダーシップに関わる問題です。サダム・フセインやバッシュール・アサドといったリーダーは独裁者であり望ましくないとみなされていますが、独裁者がいないと、部族の派閥抗争が生じ、現在ヨーロッパで波及しているような難民危機が起きます。

これらの要因は、ロシアや世界秩序に大きな意味を持っています。難民危機の結果、冷戦後の世界秩序から新たな世界が現れます。ロシアがシリアへ一方的に軍隊を派遣したのが良い例ですが、ロシアは既にこれまでの秩序を覆し始めました。強国が崩壊させなくてはならないと決めれば、世界中のあらゆる国と政権を崩壊させることができる時代は終わりました。これは、旧ソ連領では常にロシアが領域を線引きしていた過去の時代とは対照的です。ロシアでは特に中央アジア地域のイスラム系が大きく重要な存在であるため、ロシアがこれまで取ってきた行為の結果は、きっと近い将来現れるでしょう。さらに、旧ソ連の中央アジア諸国は、依然としてロシアと強い関係を維持しており、これらの国の国民はロシア訪問の際ビザさえ必要ありません。

ロシアにとって問題となっている国際テログループを組織し、資金を提供している国は、現在 4 カ国あります。第一はサウジアラビアで、ノルド・オスト占拠事件の首謀者の訓練に手を貸したと信じられています。パキスタンは、ロシアと国境を接する中央アジア諸国でのテロ活動に資金を提供してきました。カタールは、キルギスタンのイスラム教徒の活動に資金を提供しており脅威となっています。最後に、トルコはイスラム国の台頭に役割を果たしました。

ロシアは、これらの活動について何を行えばよいかという疑問が残ります。多かれ少なかれ安定した政権は崩壊させないでおくというのが一般的な考えです。たとえば、サダム・フセインはイラク国民に恐ろしい独裁制を強いましたが、少なくとも政権は安定していました。奴隷貿易もなく、ヤジディ教徒、キリスト教徒や他の少数民族の虐殺もありませんでした。問題は、独裁政権を倒したら、誰がカダフィやサダム・フセインの軍事技術を管理するのかということです。それは、さらに過酷な体制をもたらす暴力的で過激なテログループであることが多いのです。

ロシアは、シリアでの駐留にあたり、アフガン戦争で学んだ教訓を生かしました。ロシアの駐留は限定的で、投入人員もきわめて少数であり、使用した航空機およびヘリコプターもわずか 70 機程度でした。もう一つ重要な要因は、年間約 8 億ドルという予算です。これは、ファルージャやラマディ、そして今回モスルで米国が行ったような、テロリストから都市を解放するためにテロ組織に金銭を与えるようなことは、ロシアはできないということを意味しています。これとは別の重要な要因は、ロシアが地元の指導者や部族政府と緊密に連携していることです。ロシアのスタンスは、政府軍が攻撃されなければ、何よりもまず電気といった技術的支援を指導者に与えるというものです。政府は、地元地域に教育および医療支援を行い、村や都市の治安はすべて地元が掌握しています。シリア領の約 1000 の村や都市、また 70 の武装集団がこれに関わっています。

ロシアは、最初にアフガニスタンでこれを始め、地元部族で大きな成功をおさめ、後にチェチェンで実施しました。チェチェン紛争はもう起きていませんし、多数のチェチェン人がロシアの秩序や社会に溶け込んでいます。カディロフが統治するチェチェンは民主主義

ではないとすることに議論の余地はありますが、大量虐殺を伴う長期の戦争よりも、この種の対話を持ち、全国のイスラム系の地域を統合する方が双方にとって好ましいと思われる。

ロシアは、シリアの将来、アサドの行く末や対テロ戦争における米国との今後の協力体制について、整理しようと努力してきました。しかしながら、結局すべてが無に帰しました。やり遂げられないとケリーが放棄してしまったのです。約 3 週間前、米国は、中近東研究所のイギリス人研究者とともに、ロンドンでテロリストグループのリーダー達と会いました。テログループの多くは署名や呼称をめぐって対立し、アサド軍への攻撃を止めたくないと主張しました。リーダーシップに関して、ロシアは米国の同僚との間に意見の不一致が多々ありますが、依然として良好かつプロらしく接触し米軍と協力しています。米国がロシアとの戦争を望んでいないことは明白だからです。

トルコがシリア周辺でロシア機を攻撃した際、ロシアはエルドアン大統領と深刻な対立状態になりました。しかしながら、私は、エルドアン大統領はこの種の攻撃はあまりにも高くつと理解すると信じており、その後プーチンとエルドアンとの関係は正常化しました。シリア紛争でのトルコの役割として、最近エルドアン大統領はシリア北部のクルド人を攻撃しました。この行為はアサド体制に対抗するものではありません。実際、アサドはエルドアンのクルド人への攻撃を大変喜んでいます。安全保障面で、シリアとトルコの調整はよく取れています。

中国の役割をみると、中国もアサド政権のシリアを支援するために特殊部隊と軍の教育係の派遣を決定しました。これは、ロシアの例をみて、党レベルで決定されました。数百人のウイグル人がシリアおよびイラクの領土で訓練を行っています。トルコがウイグル人に対してインドネシアと台湾のトルコ大使館でパスポートを与えたため、中国の安全保障にとって、中国領土でウイグル人を阻止するよりもはるかに安く簡単で都合よくなりました。中国がシリアで反テロ活動への参加を希望しているのは、こうした理由からです。

イラクの将来は不透明である一方、ロシア、イラン、シリアとイラク当局者によって組織された、反テロ活動について連携するセンターがあります。興味深いのは、ロシアは自国の最新技術の装置すべてを検査し使用しているのですが、それら装置による抑止力のおかげでロシアと NATO との軍事衝突の可能性が低くなりました。過去 25 年間のロシアと米国の関係を考えると、これは重要です。しかしながら、この地域全体でみると、最大のプレイヤーは中国だという点に留意しなければなりません。

イラン、サウジアラビア、トルコおよびインド洋西側の首長国の間で、海軍および空軍基地を巡って深刻な競争が起きています。イランは核計画のために西アフリカの一角を必要としており、コモロ諸島についてはサウジアラビアと、エリトリアでは UAE と紛争状態にあります。UAE は、エリトリアに加えて、ソマリアやイエメンでも影響力を拡大してきました。トルコは、インド洋に二つの基地を作る予定です。一つはモガディシュに、もう一カ所はカタールに希望していますが、サウジアラビアとの紛争が発生しています。

現在、エチオピアに対抗して、エジプト、首長国とサウジアラビアとが同盟を結んでいます。中国が管理している青ナイルのエチオピア最大の電力プロジェクトは、エジプトにとって危険です。このプロジェクトを実現するためには、来年に開始しなくてはなりません。エジプトのナイルの水は白ナイルではなく青ナイルから流れてきているため、エジプトは、今後 6 年間で水の 30%と電気の 40%を失うことになるでしょう。

中国はインド洋地域でいつでも超大国になれる状態ですが、この地域だけでなく、オーストラリア北部、パキスタンのグワーダルおよびバングラデシュの海軍基地においても、今

後超大国になると思われます。さらに、中国は、モザンビーク、アンゴラ、ナミビアや南
アフリカといったアフリカ数カ国にも計画を持っています。

以上